

海の路

Vol. 31

S E A R O A D 2 0 1 9

巻頭言	P.01
平成30年度総会	P.02
平成30年度担当者会	P.07
環境事業委員会活動	P.11
魅力検討委員会活動	P.14
情報発信委員会活動・防災委員会活動...	P.17
瀬戸内海クルーズ推進会議	P.18
瀬戸内海活性化活動支援報告	P.21
瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告	P.22
後援活動報告	P.24
第12回瀬戸内海首長サミット	P.25

会員構成

大阪ブロック

大阪府 泉佐野市
大阪市 泉南市
堺市 阪南市
岸和田市 忠岡町
泉大津市 田尻町
貝塚市 岬町
高石市

岡山ブロック

岡山県 笠岡市
岡山市 備前市
倉敷市 瀬戸内市
玉野市 浅口市

広島ブロック

広島県 大竹市
広島市 東広島市
呉市 廿日市市
竹原市 江田島市
三原市 海田町
尾道市 坂町

兵庫ブロック

兵庫県 相生市
神戸市 加古川市
姫路市 赤穂市
尼崎市 高砂市
明石市 南あわじ市
西宮市 淡路市
洲本市 たつの市
芦屋市 播磨町

周防灘ブロック (山口・福岡・大分)

山口県 福岡県
下関市 北九州市
宇部市 荏田町
山口市 大分県
防府市 大分市
岩国市 別府市
光市 佐伯市
柳井市 中津市
周南市 臼杵市
山陽小野田市 津久見市
周防大島町 国東市
上関町 姫島村
平生町

徳島ブロック

徳島県 小松島市
徳島市 阿南市
鳴門市 松茂町

香川ブロック

香川県 三豊市
高松市 土庄町
丸亀市 小豆島町
坂出市 直島町
観音寺市 宇多津町
さぬき市 多度津町
東かがわ市

和歌山ブロック

和歌山県 湯浅町
和歌山市 広川町
海南市 日高町
有田市 由良町

国会員

近畿地方整備局 九州地方整備局 中国運輸局
中国地方整備局 近畿運輸局 四国運輸局
四国地方整備局 神戸運輸監理部 九州運輸局

協議会Webサイト「海の路」

<http://www.uminet.jp/>



瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会

海の路 Vol. 31

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会
発行/瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会事務局
協議会Webサイト「海の路」<http://www.uminet.jp/>

山口県下関市
福岡県北九州市

巻頭言



瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会 会長
お ば な ま さ ひ ろ
和歌山市長 尾花 正啓

会員の皆様におかれましては、平素より瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会の活動にご尽力をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年6月、愛媛県宇和島市にて開催いたしました瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会平成30年度総会及び第12回瀬戸内海首長サミットには、瀬戸内沿岸各地域より総勢21市町の首長をはじめ、近畿・中国・四国・九州から多くの関係者の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

本総会では、平成29年度の事業・収支決算報告と平成30年度の事業計画・予算案などが議論され、瀬戸内地域の交流・連携・地域振興・防災にかける支援制度の活用などについて決議されました。

また首長サミットでは、「瀬戸内海の魅力を磨くには」と題して、海ネット会員同士が連携して、瀬戸内海の地域資源をブランド化するためには、どのような取組を進めていけばよいか活発な意見交換が行われました。

瀬戸内海の観光資源は世界的にみても希有なものです。瀬戸内海の観光振興を行うためには、それぞれの地域資源を大事にして、各地の魅力をネットワークでつなぎ、点が線になるような取り組みを行っていくことが重

平成30年度総会

平成30年6月1日(金)愛媛県宇和島市にて、瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会平成30年度総会を開催いたしました。総会には、瀬戸内海沿岸各地から54市町の首長と会員である各自治体及び地方整備局等の担当者約120名が参加して開催されました。

第1部の総会では、平成29年度の事業・収支決算報告と今年度の事業計画・収支予算案等について審議が行われ原案どおり可決されました。また、「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」と題して、ホーランド・アメリカ・グループアジア・ポート・オペレーション・ディレクター 市川紗恵氏からご講演をいただきました。

第2部では第12回瀬戸内海首長サミットが20市町の首長参加により開催されました。「瀬戸内海の魅力を磨くには」をテーマとして話し合われ、瀬戸内海の地域資源をブランド化していくにはどのような取組を進めていけばよいか活発な議論が行われました。



総会の様子

総会議事

総会の開会にあたり、協議会副会長である吉田直人 松茂町長より、「本日は、瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会を開催させていただいたところ、御多忙にもかかわらず、会員の皆様、また、担当の皆様にご大勢御出席をいただき誠にありがとうございます。当協議会は、平成3年5月に設立され、本年で27年を迎えました。これまでリフレッシュ瀬戸内を始めとした環境への取り組みや、クルーズと観

歴代会長

平成3年～平成6年
姫路市長 戸谷 松司

平成7年～平成10年
坂出市長 松浦 稔明

平成11年～平成14年
小松島市長 西川 政善

平成15年～平成17年
玉野市長 山根 敬則

平成17年～平成18年
玉野市長 黒田 晋

平成19年～平成20年
下関市長 江島 潔

平成20年
下関市長 中尾 友昭

平成21年～平成26年
大竹市長 入山 欣郎

平成27年～
和歌山市長 尾花 正啓

要です。そのためには、会員皆様方の連携が何よりも大事になりますので、尚層の連携強化をお願いしたいと思います。

そして、本協議会の骨格事業である「リフレッシュ瀬戸内」には、昨年7月に発生した豪雨災害の影響により、全263カ所中、26カ所での取り組みが中止となりました。中止となった箇所が多かったにもかかわらず、約3万6千人ものボランティアの方々にご参加いただき、約200トンのゴミを回収することができました。

美しい海、美しい海岸を自身の手できれいにしていくという意識を高めていく上で、大変意義深いものであると思います。

今後も、瀬戸内・海的路の地域振興に努めるとともに、瀬戸内のなお一層の魅力発信により、更なる会員相互の絆と、連携を図りながら、瀬戸内地域全体の発展に取り組んで参りますので、皆様の益々のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成30年6月1日 愛媛県宇和島市

光の、あるいは防災関連の取り組みなど、継続的に活動が続けてこられましたのも、ひとえに会場の皆様方の御協力、賜物と大変感謝をいたしております。さて、協議会の最近の活動につきましては、瀬戸内・海的路を通じた防災ネットワーク機能の強化として、災害時の地域間の相互防災を目的とした瀬戸内・海的路ネットワーク災害時相互応援に係る協定を締結いたしました。こちらにつきましては47会員から締結をしております。リフレッシュ瀬戸内では、「水をきれいに、豊かな瀬戸内海」を合い言葉として、海岸周辺清掃を中心に多くのボランティアの皆様の御協力のもとで毎年行っているものでございます。おかげさまで今年度で26年目となり、これまで約196万人の参加者があり、約1万9千トンのごみを回収しております。また、内陸の瀬戸内海首長サミットでは、「瀬戸内海の魅力を磨くには」をテーマにお願いをしております。瀬戸内海の花崗岩、海岸も海外の方々に大変人気があり、毎年クルーズ客船の来訪が増加している状況です。寄港地においては、会員の皆様が実施しておられるクルーズ船の歓迎イベント、クルーズ船の誘致活動などに対しまして



吉田 直人 松茂町長挨拶

当協議会から支援を行っているところでございます。そのほかにも、官民が連携して瀬戸内海の魅力を発信し、海的路をつくり、地域振興を図ることを目的とした海ネットサポーター提案事業と実施会員に対しましてさまざまな支援を行っております。このような活動を通じて、会員同士がさらなる連携強化を図っていくことが、当協議会におきましても最も重要なことであると思っております。今後も、当協議会の一層の活動のため、会員の皆様からお寄せいただきました御提案や地域の要望を協議会の活動に生かしていただきたいと思いますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。」との歓迎の挨拶をいただきました。

続いて、魚住聡国土交通省港湾局産業港湾課長より、「本日、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会総会が、ここの宇和島市において、21名という多数の首長様の御出席のもと壮大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、皆様方には、日ごろより港湾行政に格別の御理解と御支援を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。さて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会におかれましては、平成3年5月に設立されて以来、長きにわたるさまざまな活動により、瀬戸内海域全体の振興と発展に取り組んでこられたことに敬意を表します。国土交通省では、明日の日本を支える環境ビジョン構想会議で決定された訪日クルーズ旅客数を、2020年に500万人とする目標の実現に向けて取り組んでいるところでございます。これにより、昨年の訪日クルーズ旅客数は、前年比27%増の253万人、クルーズ船の寄港回数は前年比37%増の2,765回となり、いずれも過去最高となっております。クルーズ船の寄港は、交流人口の増加などによる地域経済の発展、ひいては地域創生に資することから、国土交通省港湾局といたしましても、全国の地方公共団体の市町村様がされています全国クルーズ活性化会議の支援を行うとともに、国際クルーズ旅客受入機能高度化事業などによりまして、引き続きクルーズ振興に取り組んでまいります。ここの宇和島市におきましても、クルーズ船寄港に力を入れられておると聞いてございます。本日、御臨席の皆様は、瀬戸内海の魅力ある豊富な地域資源にさらに磨きをかけられ、瀬戸内海のブランド化を図られることで、瀬戸内海がクルーズの海となることを期待しております。また、港湾の核として、弊所から海の路を通じた交流を深め、きずなを深めることが、災害に強い海上ネットワークの構築にもつながります。皆様方におかれましては、会員相互のさらなる連携進化を図っていただくようよろしくお願い申し上げます。最後にになりましたが、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の取り組みに御支援、御指導を携わった



魚住 聡 国土交通省港湾局産業港湾課長

れる瀬戸内しまなみ海道沿線など、愛媛の食、文化、自然をたつぷりと御堪能いただければ幸いに存じます。結びに、本総会の御成功と瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会のますますの御発展並びに御出席の皆様方の御健勝、御活躍を祈念申し上げまして挨拶いたします。」との挨拶をいただきました。

続いて、地元開催地である、岡原文彰宇和島市長より、「まずもって、本日は、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の総会が、このように多くの皆さんの御参加のもと、盛大に開催されますことを心から感謝を申し上げます。と思います。ようこそこの、宇和島へいらっしゃいました。心から歓迎を申し上げます。と思います。また、総会開催に当たりましては、尾花会長を初め、御尽力いただきました多くの関係者の皆様は、あわせて厚く御礼を申し上げます。さて、この海ネット総会が宇和島市で開催されるのは初めてでございますので、少し本市について紹介をさせていただきたいと思ひます。県外からお越しの皆様におかれましては、かなり長時間の移動を強いられることと拝察いたしますが、四国西南地域というのは少々アクセスに難がございます。しかし、ここまで来ていただきますと、日本最後の清流と言われる高知県の四万十川にも小1時間ほどで行けたりします。また、また機会がございましたら、改めてゆつくりした日程でお越しいただきたいと思ひます。また、歴史に詳しい方は御存知かと思いますが、仙台藩、伊達政宗公の長男秀宗公が今から400年ほど前に当地に入部し、それから宇和



岡原 文彰 宇和島市長

島伊達家の歴史がスタートいたしました。その後、2代目藩主、伊達宗利が大改修を手がけた宇和島城は、現存12天守の一つとして現在でも存在感を発揮しておりますし、市内には宇和島伊達家ゆかりの文化が色濃く残っております。八代藩主の伊達宗城公は、幕末四賢候の一人と言われ、高野長英を招いたり、無名時代の村田蔵六、後の大村益次郎を登用するなど、鎖国の時代に西洋の事情に関心を示し、他藩に先駆けて近代化の一步を踏み出したことで、宇和島伊達藩の存在

国会議員の先生方、本日の総会開催に当たり御尽力をいただきました岡原宇和島市長様をはじめとする関係者の皆様方に感謝を申し上げますとともに、貴協議会のますますの御発展と本日御出席の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。」との挨拶をいただきました。



樋口 史朗 愛知県知事代理 参与

続いて、来賓挨拶として、愛知県知事代理の参与、樋口史朗様より、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会、平成30年度総会がここの愛媛宇和島で盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。また、御来賓の方々を心から歓迎いたします。また、国土交通省をはじめ関係機関の皆様方には、日ごろから本県の港湾、海岸行政の推進に格別の御理解、御協力を賜っており、厚く御礼を申し上げます。近年、訪日外国人観光客が増加傾向にある中、寄港地を中心に二度に多くの観光客が訪れるクルーズ船の手法は、少子高齢化が進む地方における地域活性化への起爆剤として大きな注目を集めております。多島美の瀬戸内海、リアス式海岸の宇和海という自然豊かな2つの海に面する本県において、宇和島港のクルーズ船が定期的に寄港しているほか、来年、松山港にはダイヤモンド・プリンセスが来航することとなり、クルーズ船による経済効果を県内に広く波及させるべく、その受け入れ態勢の整備や外国人観光客へのおもてなしの充実など、さまざまな対策を講じているところであります。こうした状況の中、本日、瀬戸内海沿岸首長の皆様一堂に会し、「瀬戸内海の魅力を磨くには」と題した首長サミット、さらには、クルーズ船関連の講演会や交流会が行われますこと、瀬戸内海におけるクルーズ船の振興はもとより、新たな観光資源の発掘、地域経済の活性化につながるものとまことに意義深く、皆様方には積極的な情報交換を図られ、実り多い総会となりますことを願っております。なお、御来場の方々には、せっかくの機会でございますので、じゃこ天や鯛飯といった、ここの宇和島の郷土料理や、日本最古の温泉と言われる道後温泉、10月に国際サイクリング大会が開か

を全国に知らしめました。加えて、宇和島ゆかりの人物といたしまして、法律の権威として名をはせた穂積陳重や大津事件の大審院長で有名な児島惟謙、大阪商業会議所の会頭を長年勤めた土居通夫、別府観光の父、油屋熊八、挿絵画家の高島華宵などがいます。実は、昨年、観光ビジョンを策定する際に、市外、県外在住の方にアンケートを行いましたところ、宇和島市という名称はかなり知られていることが判明いたしました。行ったことはいくれども名前は知っているというところで、かなり認知はされています。これは宇和島東高等学校がかつて甲子園で活躍したことや、ハワイ・オアフ島沖で宇和島水産高校の漁業実習船えひめ丸の悲しい事故があったことも、知名度に少なからず影響しているのではないかと想像しております。特に、えひめ丸の事故は、宇和島市民にとって大変衝撃的なものでありましたが、その後、宇和島市とホノルル市はさまざまな交流を通じて友情を育み、現在は姉妹都市の関係にあります。えひめ丸の事故を風化させないために、そして、ハワイとよりよい関係を築いていくことを目的として、ちょうど明日、明後日は宇和島ハワイアンフェスティバルが開催されますので、お時間のある方におかれましては、道の駅みなとオアシスうわじまさいや広場へお立ち寄りください。この地域の産業といたしましては、特にマダイやハマチを中心とした魚類養殖と、品質の高さで知られる真珠養殖、愛媛みかんに代表される柑橘類の栽培のほか、野菜の接ぎ木苗で国内一の生産量を誇る地場産業などがございます。宇和海という良好な漁場とリアス式海岸、平地が少なく、目の前に海、背後に山という特徴的な地形によって、そういった産業が形成されたわけですが、かつて耕して天に至ると言われ、厳しい土地環境の利用と表裏一体の段々畑が今も残っており、遊子水荷浦という地区の段々畑は、その景観が観光地として注目を浴びております。本日の講演会や首長サミットでは、クルーズ振興がテーマとして取り上げられるわけですが、宇和島港にも年間10回ほど外国クルーズ客船が立ち寄っていただいております。先ほど申し上げた特徴的な宇和海沿岸の地形を眺めながら湾内に進むと、いきなり奥座敷の町があらわれ、その中心にある小高い山の上に宇和島城が見えるというシチュエーション、これがクルーズ船の外国人観光客にとつてたまらない情景であるということを言われております。

明日のエクスカーションに参加される方は、陸からではありませんが、そうした状況を見ていただく予定となっております。また、エクスカーションに参加されない皆様におかれましても、せっかくの機会でございますので、ぜひとも宇和島市で有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。本日の総会及びサミットで皆様と交流を深め、瀬戸内海における今後ますますの連携を図ることで、地域全体の発展につながることを願っております。最後になりますが、この瀬戸内・海的路ネットワーク推進協議会のさらなる御発展、そして、本日お集まりの皆様方の御活躍、御健勝を心からお祈りいたしまして、歓迎の挨拶とさせていただきます。」との挨拶をいただきました。

総会議事については、議長に選出された、大城 一郎 八幡浜市長の議事進行により、平成29年度の事業・収支決算報告、平成30年度の事業計画・予算案などの7議案について審議が行われました。平成29年度においては、「リフレッシュ瀬戸内」の参加人数の拡大を図るための活動や、会員同士の連携や瀬戸内地域の交流連携、地域振興の取組が積極的に展開されるよう「海ネットイベントプランコンテスト」等の各支援制度の活用推進、平成31年度総会を山口県宇部市で開催することなどが決議されました。



大城 一郎 八幡浜市長

また、「世界のクルーズ動向と日本に求められる上質な観光ツアー」と題してホーランド・アメリカ・グループ アジア・ポート・オペレーション・ディレクター 市川紗恵氏よりご講演をいただきました。

第12回 瀬戸内海首長サミット

最近の瀬戸内海首長サミットでは、平成28年「第10回瀬戸内海首長サミット」では、クルーズの活性化に向けて地方創生に繋がる周遊ルートの可能性について活発な議論が行われ、平成29年「第11回瀬戸内海首長サミット」では、海ネット会員同士が連携して、瀬戸内海クルーズ振興とその魅力を発信するためのブランド化を目指すには、どのような取り組みを進めていけばよいか活発な議論が行われました。

今年度の第12回瀬戸内海首長サミットでは、「瀬戸内海の魅力を磨くには」と題して議論が行われました。各首長より地元の魅力の発掘や取り組み等をご発言頂き、最後にコーディネーターである四国地方整備局次長より「それぞれの本物を大事にして、各地の魅力をネットワークでつなぎ、点が線になるような取り組みを行っていきましょう。」と取りまとめられました。



第12回瀬戸内海首長サミットの様子

翌6月2日(土)には、宇和島港坂下津岸壁、遊子水荷浦段畑、宇和島城、道の駅みなとオアシスうわじまきさいや広場の視察を行いました。

《視察先の紹介》

○宇和島港坂下津岸壁 一万トントクラスのクルーズ船の寄港が可能。近年、約10〜12隻の外国船社のクルーズ船(ロストラル、カレドニアン・スカイなどのラグジュアリー船)が寄港しています。宇和海の半島美に加え、城や神社、重要文化

的景観の段畑などコンパクトで短時間に宇和島の魅力を堪能できるスポットが多数あり、クルーズ旅客に人気があります。出迎え時には、これかた太鼓の披露・牛鬼鎮座、ゆるキャラ(伊達にゃんよ)と甲冑武者でお出迎え・お見送り、三味線・尺八の生演奏などが披露されています。

○遊子水荷浦段畑 「耕して天に至る」と形容される段々畑。幅・高さともメートルほどの石垣がはるか山頂まで続いています。「日本農村百景」などに選ばれており、平成19年7月には全国で3例目の「国の重要文化的景観」に選定されました。年間を通じて降水量が少なく、冬期には西側からの強い季節風を受けるこの畑では、現在馬鈴薯を栽培しており、春頃に収穫を迎えています。

○宇和島城 現存12天守の1つ。鶴島城とよばれ慶長6年(1601)に建造されました。築城の名手と言われた藤堂高虎が築城し、城の外郭は上から見ると不等辺五角形をしており、随所に築城の名手ならではの工夫が見受けられます。のちに、奥州仙台湾主、伊達政宗の長子秀宗が宇和郡10万石を賜り、元和元年(1615)に入城。2代宗利の時、天守以下城郭の大修理を行い、寛文11年(1671)に完成。その姿を現在に残しています。

○道の駅みなとオアシスうわじまきさいや広場 きさいやとは愛媛県南予地方の方言で「来てください」という意味で、宇和島の大地で育った野菜、宇和海で獲れる新鮮な旬の魚、じゃこ天やアコヤ貝の貝柱を使った惣菜、米粉を使ったパン屋などの宇和島ならではの商品を多数販売しております。ほかにも宇和島のシンボル「牛鬼」や、特産品の真珠を展示する施設「美人の湯」として有名な熱田温泉から運ばれたお湯を使った足湯などがあり、宇和島の魅力に気軽に触れられる施設となっています。



宇和島城視察の様子



宇和島港坂下津岸壁視察の様子



道の駅みなとオアシスうわじまきさいや広場視察の様子



重要文化的景観の選定を受けた「遊子水荷浦段畑」

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 平成30年度担当者会の開催報告

平成30年11月8日(木)～9日(金)の2日間、兵庫県神戸市にて、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会担当者会を開催しました。当日は約80名が参加し、今年度の活動報告や来年度の総会提案事項に向けた活動方針等について議論が行われました。

また、9日に行われました現地視察では、神戸港や神戸海洋博物館を視察しました。



担当者会の様子

開会



山本 洋史 広島市都市整備局みなと振興課長

担当者会の開会にあたり、当協議会の幹事長である、山本洋史広島市都市整備局みなと振興課長より、「本年6月1日に愛媛県宇和島市において開催された総会及び第12回瀬戸内海首長サミットでは、21名の首長様に参加いただき、『瀬戸内海の魅力を磨くには』をテーマに建設的なご議論をいただき、非常に有意義なものとなった。本日の4つの実行委員会(分科会)においても率直な意見を出していただくことによって、より中身の濃い議論をお願いしたい。」との開会挨拶をいただきました。

次に、開催地を代表して、辻英之神戸市みなと総局長より、「神戸港は

平成30年度事業報告、分科会(実行委員会)及び全体会

平成30年度の事業報告として、これまでの会員活動への支援の申請状況と実施済み事業の報告を行いました。「支援事業である『瀬戸内海活性化活動支援』、『瀬戸内海クルーズ推進活動支援』、『リフレッシュ瀬戸内全体拠点地環境関連行事等連携支援』、『瀬戸内・海の路利用振興事業』、『海ネットサポーター提案事業』、『防災対策推進活動支援』について、引き続き募集を行っていますので会員の皆様の積極的な活用をお願いします。来年度の総会は山口県宇部市にて開催、担当者会については香川県坂出市にて開催するので皆様の参加をお願いしたい。」との説明が事務局よりありました。

引き続き、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会の4つの実行委員会に分かれての議論が行われました。

第2部の全体会では、各実行委員会での議論の内容報告、及び平成30年度の活動内容についての方向性が提示されました。瀬戸内海地域の振興・発展、協議会活動を推進していく上でも、各種支援事業について積極的な申請をお願いしたい、との説明が事務局よりありました。

実行委員会においても担当者から活発な意見や質問がなされ、大変有意義な担当者会となりました。なお、魅力検討委員会、環境事業委員会、情報発信委員会、防災委員会での各議論の内容は以下のとおりです。

分科会

■魅力検討委員会

魅力検討委員会では、平成30年度の活動状況と翌年度の活動方針について議論しました。「海ネットイベントプランコンテスト」に関しては、平成29年度の制度

1868年の1月1日に、安政の五ヶ国条約に基づいて開港し、昨年、開港から150年を迎えた。その間、船舶の大型化や貨物のコンテナ化等により、港が果たす役割が変わってきており、新港突堤西地区については従来の貨物というよりは市街地に近いという事で賑わい創出エリアにしている。第一突堤についてはホテル、第二突堤については再開発を進め、第三突堤はフェリーターミナルであり、瀬戸内の東の玄関口となるよう整備しているところ。第四突堤は、大型客船のクルーズターミナルであり、瀬戸内海航路を通るクルーズ客船の離発着場所にもなっており、にぎわいを創っていく中で、瀬戸内海を通して神戸に来ていただく、もしくは神戸から瀬戸内海の沿岸市へ向かう玄関口として、これから私共もいろいろ考えていかなければならない。瀬戸内沿岸で多様な取り組みを進めて頂いて、それぞれ沿岸市が全体として活性化するような取り組みを全力で進めていきたいと思います。」との歓迎の挨拶をいただきました。



津田 行男 中国地方整備局 クルーズ振興・港湾物流企画室長

続いて、事務局を代表して中国地方整備局港湾空港部津田行男クルーズ振興・港湾物流企画室長より、「平成30年度の総会では、『瀬戸内海クルーズ推進会議』の設立について承認された。今後、会員の募集を行い、瀬戸内海クルーズ振興の施策について提案を行っていきたくと考えている。」との挨拶を行いました。



辻 英之 神戸市みなと総局長

の見直しにより応募期間が延長されており現在も応募期間中であるため、積極的な応募を頂くよう周知を図ることが確認されました。また、継続的に実施されているイベントも多数あることから、昨年度以前に応募されたイベント企画のうち、受賞とならなかった企画については、応募可能であることを改めて周知することも確認されました。

「瀬戸内・海の路利用振興事業」については、防災の視点を盛り込んだアンケート調査などがネックになっているのではとの意見もありましたが、良い制度なので事例等をわかりやすく紹介し継続実施してほしいとの意見をいただきました。

「海ネットサポーター提案事業」については、昨年度応募が上限に達したため、申請をお断りした経緯があり、今年度は予算を増額しています。現在のところ予算に余裕はありますが申請を予定されている海ネットサポーターについては早めに申請をしてもらうことを確認しました。

最後に、翌年度の活動方針として、「海ネットイベントプランコンテスト」で選ばれた事業を積極的に支援すること、「瀬戸内・海の路利用振興事業」、「海ネットサポーター提案事業」により、会員間の連携による防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興を推進するということで、了承されました。



魅力検討委員会の様子

■環境事業委員会

環境事業委員会では、骨格事業として継続して実施している「リフレッシュ瀬戸内」と「海の健康診断調査」について、協議いたしました。

今回の環境事業分科会では、ここ数年、参加者及び回収ゴミ量について減少・横ばいの傾向にあることから、その改善策について、各地での取組事例などをもとに検討いただきました。また、「リフレッシュ瀬戸内」実施時期について、現状の

6～8月の3か月間が、各地の海岸清掃実態と照らし合わせて妥当かどうか、という点について議論をいたしました。それから、「リフレッシュ瀬戸内全体拠点環境関連行事等連携支援」について、平成30年度より、全体拠点地でイベントを行わない場合、他の実施地で希望があれば制度活用できるよう制度を変更しましたが、次年度以降も引き続きこの方針で取り組むとともに、本支援制度をより活用するためにはどうするべきか、議論いたしました。

○問題点・改善策について、次の意見をいただきました。

・リフレッシュ瀬戸内の参加者を募るにあたり、地元の社会福祉協議会など、日ごろボランティア団体などと交流のある既存のネットワークを活用したPRがより効果的と思われる。

・ポスター等は掲示・回収等に人手を要することもあり、SNSを用いて周知する方が効率的。

・梅雨における天候不順や、近年の猛暑による熱中症回避を考慮し、海岸の清掃を前倒しで5月から実施する方がよいのでは。

・台風の接近する10月頃まで期間を延長し、台風後のゴミ清掃も見込んだ実施期間とするのが、より実態に即しているのでは。

・「リフレッシュ瀬戸内」の期間を限定することなく、1年を通しての取組として位置づけることも検討してみても。

・全体拠点地の環境関連行事等連携支援について、全体拠点地において実施されるか否かが早い段階で情報提供されないこと、せっかく制度を変更しても、他の地域での実施につながらないので、情報提供のタイミングを考慮されたい。

・活動支援について、例えばポイ捨て注意喚起の看板設置など、ハード整備にかかる費用に対しても利用できるようにするなど、要件の幅を広げてはどうか。

これら議論頂いた結果を受け、リフレッシュ瀬戸内の事業計画に関する部分は、環境事業委員会所属会員と相談の上、来年度の実施方針に反映、幹事会・総会へ諮っていきます。



環境事業委員会の様子

①については、平成30年7月豪雨において、尾道市が協定による応援の依頼をし、今治市が因島総合病院への給水活動の応援を実施した件について報告しました。

②については、9月10日に瀬戸内市が協定締結を完了し、現在の協定締結会員数は75会員になったことを報告しました。

③については、「海中路」Webサイトの防災委員会活動計画のページについて報告しました。

④については、昨年度に利用促進に向けた修正を実施したが、一部、文章について、未修正の箇所があったため、改めて修正することを報告しました。

⑤については、会員追加同意通知書について、発信者を「市長」とし、下段に（協定運営協議会幹事○○課長○○○○）を記載し、市長宛の様式とすることを報告しました。

また平成30年度の活動方針としては、協定書第12条に規定する協定の実効性の確保に向けての訓練について、被災時の各会員の体験をアンケートにより集約し、問題点の洗い出しと、より利用しやすい協定とすべく検討を実施していくことと、防災対策推進活動支援事業の積極的な活用を図るための広報を重点施策として取り組むことを提案しました。

具体的な活動内容については以下の2点を重点的に取り組んでいくことと承されました。

①「瀬戸内・海のネットワーク災害時相互応援に関する協定」について

尾道市へ今治市からの協定に基づく応援の実施第1号について、「海中路」Webサイトの防災委員会活動計画のページへの掲載を実施するとともに、引き続き締結会員の拡大を図り、新たに加入した締結会員や、本委員会の活動内容等について積極的に情報発信を行うことで、利用の促進を図っていきます。

また、応援内容について、支援物資だけでなく、人員や情報などの幅広い応援も実施できないか検討していきます。

②情報伝達訓練方法の見直し



防災委員会の様子

■情報発信委員会

情報発信委員会では、「海ネットホームページ（以下、HP）」の充実に向けた取り組みと題しまして、平成30年度までの取り組みと今後の取り組みについて協議しました。

平成30年度までの取り組みとして、左記のことが報告されました。

①平成29年度4月にHPをリニューアルし、文字の認識性やセキュリティの脆弱性が解消し、また情報の更新を行いました。

②HPリニューアル後、各会員にID・パスワード・操作マニュアルを配布し、どの会員でも簡単に情報発信が可能となりました。

③平成30年度と昨年度のアクセス数を比較すると、約1.26倍に増加しています。

④平成30年度11月までの、会員からのイベント情報の発信がされていません。

今後の取り組みとして、多くの情報発信がされるように左記のことが議論されました。

①事務局より各会員へ、四半期に二度を目途に情報発信依頼を行います。

②情報発信依頼の際に、どのようなページが興味を持たれているかの参考情報を送付します。

③瀬戸内・海の路ネットワークに加入している自治体マップを掲載します。

④各自自治体とHPとに相互にリンクを設置するよう依頼します。



情報発信委員会の様子

■防災委員会

防災委員会では、平成30年度の取り組みについて状況報告を行うとともに、翌年度の活動方針、活動内容について議論を行いました。

平成30年度の状況報告では、①「瀬戸内・海のネットワーク災害時相互応援に関する協定」に基づく応援の実施第1号、②締結会員の拡大、③防災活動内容等の情報発信、④防災対策推進活動支援事業、⑤新規加入時の様式の一部修正について報告を行いました。

現地視察

今年度、大阪北部地震、7月豪雨、台風21号などの災害において、アンケートを実施し、得られた情報を元に、今後実施予定の訓練方法の見直しを検討し、災害時における協定の実効性の確保に繋がっていきます。

翌日は、神戸海洋博物館会議室において、神戸港の概要（神戸港の変遷、コンテナ取扱量が震災以前をようやく上回った現在までの復興の歩み、近年のクルーズ船入港状況、港のにぎわいづくりへの取り組み、等）について、神戸市みなと総局振興課の横山課長よりご説明いただきました。

その後、観光客船「ファンタジー号」に乗船し、神戸港現地視察を行いました。視察のアテンドをしていたいたのは、「みなとまちづくりマイスター」で、NHK放送の「プラタモリ」にも出演し、タモリさんに神戸の港の成り立ちなどを直々に紹介された経歴も持つ森田潔さん（神戸海洋博物館参事）です。船から見える神戸港の各施設や、立地する企業とその活動状況などについて、大変分かりやすい解説をご披露いただき、現地視察に参加された皆さんも、森田さんの豊富な知識と、流暢な解説に感服していました。

船による神戸港視察の後、引き続き森田さんにより、神戸ポートタワーから見える神戸港及び神戸市街地説明と、神戸海洋博物館の案内をしていただき、大変充実した内容となりました。



神戸港概要説明



森田参事による神戸港ツアー



ポートタワーから見た神戸港



神戸海洋博物館

環境事業委員会活動

リフレッシュ瀬戸内の開催について 全体拠点地レポート

愛媛ブロック

平成30年6月1日から8月31日の間、「受け継ごう、きれいで豊かな瀬戸の海」を言葉に26回目となる「リフレッシュ瀬戸内」を開催しました。今年度は、瀬戸内海沿岸各地の213箇所での開催となり、36,159人のボランティアの方々に参加し、約194トンのゴミを回収することができました。

全体拠点地の愛媛県伊予市では、実施日の7月15日(日)にボランティア600人が参加し、約2.3トンのゴミを回収しました。

参加者からは、「もう20年以上、毎年この地元の海をみんなで掃除している。昔に比べ、海にはゴミが多く集まるのが残念でならない。一人ひとりがマナーに気を配り、きれいな海を後世に残していきたい。」「定期的に地元住民が集まり海岸清掃を実施するのは良いこと。これからも続けていきたい。」といった声をいただきました。

今後も、瀬戸内海をはじめとする地元海岸の環境美化に対する意識を高めるとともに、豊かな自然を受け継いでゆくため、この活動を継続していきたいと考えています。

リフレッシュ瀬戸内 ブロック拠点地レポート

兵庫ブロック(姫路市)



6月24日(日)、姫路港(飾磨埠頭周辺)において実施しました。約170名の参加があり、ペットボトルや、缶、ビンなど約2tものゴミを回収しました。

参加者からの意見

港に捨てられているゴミの量に驚きました。会場の周辺では花火大会が毎年開催されているので、一市民としても姫路港の美観維持は重要だと再確認できました。

広島ブロック(広島市)



7月1日(日)、広島市広島みなと公園において実施しました。約200名の参加があり、約5.8tのゴミを回収しました。

参加者からの意見

大雨の後はどうしても漂流物が打ち上がってくるので、きれいになってよかったです。ボランティアが大勢集まってきており、良いことだと思います。自分たちのまちが自分たちの手できれいになっていくのは嬉しいです。

岡山ブロック(倉敷市)



6月24日(日)、倉敷市沙美海水浴場において実施しました。約1,000名の参加があり、約1.3tのゴミを回収しました。

参加者からの意見

「子どもと一緒に参加しました。暑くて心配でしたが、子どもたちが元気に一生懸命ゴミ拾いをしており、綺麗になって気分が良かったです。」「毎年、清掃活動に参加しています。今年は、例年以上に漂流ゴミが多いと感じました。」などといった声が聞かれました。



和歌山ブロック(和歌山市)



5月の25日(金)と31日(木)、6月17日(日)、和歌山市加太海岸等において実施しました。3日間で延べ約720名の参加があり、ペットボトルや、缶、ビンなど約7.4tものゴミを回収しました。

参加者からの意見

周辺の海岸を訪れている観光客や釣り客に対して海ネット・リフレッシュ瀬戸内事業の活動をアピールするため、大型のぼりやパネルを作成・設置し、広く海の環境保全活動をPRしました。

香川ブロック(三豊市)



6月17日(日)と、7月の1日(日)と15日(日)、三豊市大島海岸において実施しました。3日間で延べ約400名の参加があり、約3.1tのゴミを回収しました。

参加者からの意見

「今回初めて海岸清掃に参加しましたが、想像以上にゴミが漂着していて驚きました。清掃後は散乱していたゴミがきれいに片付けられ、すっきりした気持ちになりました。来年も是非参加したいと思います。」「子供と一緒に参加しました。熱心にごみを集める子供たちを見て、海や自然環境のことを考える良いきっかけになったと感じています。」といった声が聞かれました。

周防灘ブロック(別府市)



7月15日(日)、別府市関の江海岸ほか3箇所において実施しました。2,310名の参加があり、17.6tのゴミを回収しました。

参加者からの意見

「きれいになると気分がいい。捨てる立場にならないよう気を付けたい。」「毎年参加していて、台風や水害の影響を心配していたが、ごみの量は例年と変わらず安心した。」「初めての参加で、台風の影響か、思った以上にゴミが多いが、きれいになると気分がいい。」といった声が聞かれました。

徳島ブロック(鳴門市)



5月29日(火)、鳴門市大毛海岸において実施しました。約100名の参加があり、約0.4tのゴミを回収しました。

参加者からの意見

「普段は何気なく海を見て暮らしているが、改めて見るとゴミがたくさんあることに気付いた。きれいな海岸を今後も守っていきたい。」「バーベキューをした跡と思われる燃えた炭のかけらが時々見つかった。みんなの海岸なので、楽しく安全に遊ぶようマナーを守って利用してほしいと思った。」「最後に一箇所に集めたゴミの量を見て驚いたとともに、参加者一人一人の協力があったこそ、たくさんの量のゴミを集めて、海岸をきれいにする事ができたという達成感も味わうことができた。」「小さい子どもたちも、こうした活動を通して、自分たちが暮らす地域のことを少しでも大切に思う気持ちが芽生えたらいいなと思った。」

*大阪ブロック(大阪市)は中止



清掃活動状況

平成30年度リフレッシュ瀬戸内実施結果

府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)	府 県	ブロック拠点	実施箇所数	参加人数(人)	ゴミ収集量(t)
大阪府	大阪市*	6	1,340	4.2	徳島県	鳴門市	11	2,893	12.0
兵庫県	姫路市	20	7,787	17.2	愛媛県	伊予市	50	3,016	21.8
和歌山県	和歌山市	15	1,383	21.5	周防灘(山口県)	別府市	21	3,999	24.5
岡山県	倉敷市	7	1,440	3.7	周防灘(福岡県・大分県)		6	2,787	2.6
広島県	広島市	28	5,719	44.8	合 計	—	213	36,159	194.2
香川県	三豊市	49	5,795	41.9					

伊予市は全体拠点地 *大阪市は中止

海の健康診断調査を実施しました

環境事業委員会では、「ゴミを捨てない」、「ゴミを捨てさせない」といったゴミ排出抑制につながる予防的な取り組みを推進させるために、平成14年度から瀬戸内海沿岸地域の美化活動「リフレッシュ瀬戸内」と連携して、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されている手法を取り入れた「海の健康診断調査」（ゴミの組成調査）を実施しています。

平成30年度は全ブロック中10箇所において調査を実施しました。なお、実施箇所及び実施結果につきましては、以下のとおりです。

素材別に見ますとプラスチック類と発泡スチロール類が全体的に多く、過去と同様の結果が得られました。

これまでの継続的な調査により、ゴミの地域特性が明らかになってきており、瀬戸内海に住む人々のゴミに対する意識向上に役立てていきたいと考えています。

今後も調査を継続していくことによって、瀬戸内海全体で共通するゴミ、各地域の特徴的なゴミを情報発信し、ゴミ排出抑制への啓発活動に役立て、美しい瀬戸内海を次の世代に継承していく取り組みに繋がっていきます。

魅力検討委員会活動

「海ネットイベントプランコンテスト」への支援

瀬戸内の豊かな自然環境や歴史的な地域文化の保全・継承や、瀬戸内ブランドの価値の向上など、オリジナリティ溢れる地域活性化イベント等への支援を拡充するため「海ネットイベントプランコンテスト」を実施しています。

「海ネットイベントプランコンテスト」は、事前に企画した瀬戸内の魅力を向上させるイベントプランを会員から募集し、全会員による投票により支援対象イベントを決定、賞に合わせた支援をするものであり、継続的に実施しているイベントの発展、目的意識の明確化、会員間の情報交換の促進などの効果も期待するものです。

兵庫ブロック

西宮市（甲子園浜海岸）



参加者からの意見

海岸のゴミを拾い、どのようなゴミがあるのかを実際に見ることで地域の様子がわかり、自分達の地域をきれいに保ちたいという意識をさらに強めることができました。

和歌山ブロック

和歌山市（加太海岸）



参加者からの意見

海浜のゴミの種類や量が分かり、後日実施予定のボランティアや関係機関の清掃活動の参考となった。

岡山ブロック



岡山市（宝伝海水浴場）

参加者からの意見

今回実施してみて、ごみ発生の原因の多くは人が捨てているものと分かった。瀬戸内海の環境保全のために日頃よりPRが必要と感じた。

瀬戸内市（前泊海岸）

参加者からの意見

釣り糸や発泡スチロールといったような細かなゴミが多く、海藻などと絡まっていたため分別に苦労した。

周防灘ブロック（山口・福岡・大分）



岩国市（青木海岸）

参加者からの意見

最近の海岸ゴミの種類や量の傾向を把握できた。今回は台風及び集中豪雨により流木等のごみが例年より多かった。

姫島村（みつけ海岸）

参加者からの意見

早朝からみんなで海岸清掃ができて楽しかった。海岸をきれいにして魚がこれからも増えるといいなと思う。

愛媛ブロック



伊予市（森海岸ほか）

参加者からの意見

本調査により、市内各海岸のごみの状況が把握できるため、市民の問い合わせに対して、正確な情報をお伝えすることができた。

徳島ブロック



鳴門市（大毛海岸）

参加者からの意見

地元の小学校の児童に調査を行ってもらったが、地元の自然の現状を知ってもらいたい機会になったと思う。

「クリスマスチャリティバールンナイトinうじな」



- 会員 広島市（広島県）
- 開催日 平成30年12月23日
- 内容

当初、平成30年7月7日に「七夕バールンナイトinうじな」としてイベント開催を予定していましたが、直前に発生した豪雨災害の被害を考慮し、7月6日の段階でイベントの中止を決定致しました。その後、実行委員は南区似島での災害復旧に従事しました。その経験や地域の方からの支援もあり、12月に「七夕」↓「クリスマスチャリティ」へイベント名を変更し、イベントの実行を行いました。タイルのランタン祭り（※イーペルランナーインターナショナル）を参考に、打ち上げるランタンを「風船」に代えて夜空に飛ばすイベントを行いました。音楽やバールン、LED照明による演出、屋台の出



「海風と夜空」を感じていただけた立地で、素敵な想い出を作るイベントになりました。イベント開催時間や企画内容に変更が生じたものの、予定していた「夜間のバールンリリース」「インスタ映え」「話題性」という点に加え、復興支援（災害チャリティ）という点も加わり、当初目的を十分に達成できました。



店、夜（18時）に1,000個の一斉に風船を夜空に飛ばし、地上からライトで照らす演出を行いました。街灯やビルの明かりが多い街中では味わえない

周防灘ブロック（山口・福岡・大分）

岩国市（青木海岸）	姫島村（みつけ海岸）
プラスチック類 92.9%	プラスチック類 40%
ガラス類 5.3%	ガラス類 40%
発泡スチロール 0.9%	発泡スチロール 20%

※1位同率

岡山ブロック

笠岡市（宝伝海水浴場）	瀬戸内市（前泊海岸）
プラスチック類 73.5%	プラスチック類 52.3%
金属 11.8%	発砲スチロール 23.9%
紙 5.9%	金属 11%

愛媛ブロック

伊予市（森海岸）	伊予市（新川海岸）	伊予市（尾崎海岸）
プラスチック類 84.2%	金属 60%	プラスチック類 91%
発砲スチロール 13.2%	プラスチック類 40%	金属 4.5%
紙 2.6%		発砲スチロール 1.5%

徳島ブロック

鳴門市（大毛海岸）
プラスチック類 63%
金属 24.3%
紙 4.9%

兵庫ブロック

西宮市（甲子園浜）
プラスチック類 83.6%
ガラス類 6.8%
紙 4.9%

和歌山ブロック

和歌山市（加太海岸）
プラスチック類 94%
発砲スチロール 4%
金属 2%

※「クリーンアップ全国事務局」の基準に基づいたアイテム別99分類ごとの組成について、各海岸ごとの上位（組成の多い方）から3位までを（個数・%）で記載。



「紀州湯浅のシロウオまつり」

● 会 員 湯浅町（和歌山県）

● 開催日 平成31年3月17日

● 内 容 本イベントは、毎年春先の2月中旬から

3月下旬にかけて海岸の汽水域において産卵のため遡上してくるシロウオと古くから行われている四つ手網といわれる特殊な網で掬いとる漁法（四つ手網漁）の伝承を目的とし、また町内外へのPRと町の活性化を図るため開催され、今年で15回目を迎えました。今年の「紀州湯浅のシロウオまつり」は、平成31年3月17日（日）に開催され、多くの来場者で賑わいました。近年隣町の広川町でもシロウオの伝承に力を入れ始め、湯浅のシロウオまつりと合同でイベントを開催し、体験漁などのイベントにて、来場者の方々に楽しんでいただけた。まつり会場では、伝統漁法の四つ手網の見学に多くのカメラマンが訪れ、シロウオすくいや踊り食いのイベントは、小さな子どもから大人までシロウオに触れていただき多くの皆様に喜んでいただきました。特に、シロウオ炊き込

みご飯は、販売開始から1時間半程度で完売し、今回も大盛況でした。シロウオに関するイベントだけでなく、町内店舗が集まる「湯浅マルシェ」を開催し、湯浅町の特産品である柑橘類や醤油、金山寺味噌などを販売しました。また、日本遺産にも認定された「醤油」の町を散策いただくスタンプラリーも開催され、多くの方に湯浅町の魅力を発信できました。



オープニング式典



シロウオすくいの様子



「宇治島サニーマイランド クリーン作戦」

● 会 員 広島県

● 開催日 平成30年9月16日

● 内 容 瀬戸内海国立公園内に位置する無人島「宇治島」の自然を守るため、毎年海の日

に2000人乗りのフェリーを借りて、福山港から宇治島に渡り砂浜に漂着したごみを全員参加で清掃を行っています。（海の日に開催予定でしたが、豪雨災害のため9月16日に延期して行いました。）清掃後は、海水浴や釣り、マリンスピットを通じて宇治島の魅力・瀬戸内海の魅力を体感してもらいました。今年、初の試みとなるシーグラス採取や海辺の生き物の観察会を行いました。



シーグラス採取

また、翌年度のイベントプランについても、全会員による審査投票の結果、受賞企画が決定しました。

● 最優秀賞 ひがた美人まつり

（ひがた美人でひとこひとの 貝合わせ）
（大分県中津市）

● 優秀賞 SETOUCHI PORTOMERCATO

「せとぼる」（広島県竹原市）

● 奨励賞 風早サンドアートフェスタ2019
（愛媛県松山市）

瀬戸内のブランド化に

向けた官民連携活動 （海ネットサポーター提案事業）

官民連携による瀬戸内の新たな賑わいを創出するため平成23年度に制度化された「海ネットサポーター」は、設立当初の55団体から89団体（平成31年3月時点）にまで拡大しています。

「海ネットサポーター提案事業」は、行政である会員と民間の海ネットサポーターが連携した瀬戸内のブランド化に向けた地域振興への取り組みに対して支援を行うものであり、平成30年度は2件の事業を実施しました。

小松島みなとフェスティバル

● 実施会員及び海ネットサポーター名

小松島市、NPO法人

港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま

● 実施日 平成30年10月7日

小松島市が海ネットサポーターであるNPO法人港まちづくりファンタジーハーバーこまつしまと連携し、本港地区周辺にてイベントを実施しました。

事業実施日はクルーズ船「にっぽん丸」の入港日であり、本事業実施会場付近ではイベント「ニューポートミュージックフェスティバル」や、小松島市の開催する「みなとマルシェ」等、広範囲でのイベントが開催されました。



琉球国づくり太鼓



ミニSL

客船入港イベント

『Voyage of Night 4』

● 実施会員及び海ネットサポーター名

玉野市、NPO法人UNOICHI実行委員会

● 実施日 平成30年10月20日

バハマ船籍豪華客船「スターレジェンド」が宇野港に入港するにあわせて、玉野市、海ネットサポーターであるNPO法人UNOICHI実行委員会と連携して入港歓迎イベントをクルーズ客船が係留する宇野港第1突堤で開催しました。当日は、岡山県内外の瀬戸内の街から飲食、グッズ、ワークショップを展開する約30店が集まり、クルーズ船乗客、クルー、県内外から訪れるお客様のおもてなしを行いました。イベントの運営には地元の高校生をはじめ、大学生、高校生、中学生が多数参加し、店舗の出展やおもてなしを主体的に行い、地域の魅力発信に大いに貢献しました。



「ヨガ」のイベント



『Voyage of Night 4』イベントの様子

子どもビンゴ大会では100枚の整理券をすべて配布することができ、会場を盛り上げることができました。また、同会場で開催していたミニSLの総乗車人数は779人と多くの人が体験されました。

小松島本港地区にクルーズ船乗船客や市内外の方々等、多くの人々が集い、交流を深める機会となりました。

情報発信委員会活動

WEBサイト「海の路」のコンテンツの更新作業を行いました。

情報発信委員会では、昨年度更新作業が行われたWEBサイト「海の路」について、閲覧者を増加させ、より多くの人に瀬戸内海の魅力を発信する為、内容の充実を図っております。主な更新内容としては、今年度から開催された「瀬戸内海クルーズ推進会議」についての紹介ページを作成しました。今後、全体会議及び各地区エリア会議が行われた際には、会議の内容について追加していきます。

内容の更新作業とは別に、会員の皆様からより新しく、より多くの情報を発信していただく体制を目指し、定期的に情報提供依頼をさせていただいております。会員ご自身での情報発信が可能となっており、海ネットサイト管理ホームページに「運用マニュアル」を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

平成29年度の更新から1年間のアクセス解析を行ったところ、WEBサイト「海の路」では月に約5千件程度の閲覧がありますので、会員の皆様からの情報が閲覧者の目に留まる可能性があります。会員の皆様からの情報でWEBサイト内の内容が充実していけば、閲覧者が増加し興味を持つ人も増えていくと期待されます。

今後とも、海ネットホームページを活用した積極的な情報発信をよろしくお願いいたします。



瀬戸内海クルーズ推進会議

瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回全体会議

瀬戸内海のクルーズについては、以下のような課題があります。

- ・クルーズ船の寄港地が一部の港湾に限定されており、瀬戸内海全体としてクルーズ船寄港による各種需要をうまく取り込めていない。
- ・瀬戸内海のクルーズ振興に、国、自治体、民間団体等が個別に取り組んできているが、関係者が体的にクルーズ振興するためのまとまった推進母体が存在しておらず、対外的に「瀬戸内海クルーズ」を発信する機能が不足している。

この課題に対応するため、瀬戸内海沿岸自治体、国の機関で構成する「瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会」の下に、瀬戸内海クルーズの振興を図り、瀬戸内海が世界的に知名度の高い「エーゲ海」や「カリブ海」等に並ぶブランド力の高いクルーズの海となることを目指す「瀬戸内海クルーズ推進会議」（以下「推進会議」という。）を設置し、第1回全体会議を平成30年12月13日（木）に開催しました。

当日会議では、推進会議の代表として（社）中国経済連合会荻田知英会長、副代表として四国経済連合会千葉昭会長を選出いたしました。瀬戸内海クルーズ推進会議の運営体制が承認され、推進会議として進める取組について、議論がなされ、取組を進めることが承認されました。また、今後の取組の進め方についても承認されました。



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回全体会議 開催状況

防災委員会活動

第1号「瀬戸内・海のネットワーク災害時相互応援に関する協定」の活用について

平成30年7月豪雨において、尾道市が協定による応援の依頼をし、今治市が因島総合病院への給水活動の応援を実施しました。

（応援の経過）

7月豪雨災害の際、被災した尾道市では日本水道協会へ応急給水の支援を依頼し、災害応援協定を締結している島根県松江市、鳥取県南部町、広島県福山市と九州地域の水道事業者、自衛隊からの応援を受けていましたが切迫した被災対応の中、因島総合病院への給水活動まで手が回らないため、「瀬戸内・海のネットワーク災害時相互応援に関する協定」を活用し、姉妹都市でもある今治市へ応援を要請、受諾をいただきました。

しかしながら、今治市も被災していたため、今治市中央消防署からの応援を実施していただきました。



左:今治市出発式、右:因島総合病院到着時 今治市から提供

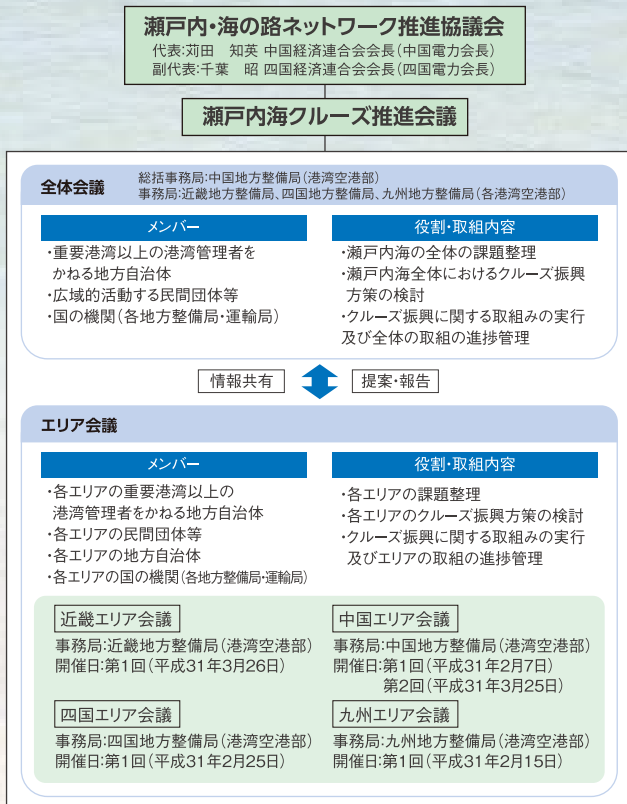
瀬戸内海クルーズ推進会議として進める具体的な取組み

瀬戸内海クルーズ推進会議第1回全体会議において承認された5つの取組事項に基づき、具体的な取組として、以下の項目を進めることとする。

【取組1】 港湾での 受入環境改善	各港の課題整理に向けた基礎調査の実施と課題の整理 各港における「港湾での受入環境」、「港から観光地へのアクセス性」に関する課題整理に向けた基礎調査を実施し、課題を整理 「アクションプラン」を策定
【取組2】 港から観光地への アクセス性向上	課題の整理結果を基に、各対象港湾ごとに「アクションプラン」を関係構成員が策定 アクションプランに基づき、「港湾での受入環境改善」、「港から観光地へのアクセス性向上」を図る
【取組3】 瀬戸内海クルーズ としての情報発信	情報プラットフォームの構築 外航船社等を対象に、寄港地の港湾施設情報や観光地情報を発信する「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」のプロトタイプを構築をし、瀬戸内海クルーズとしての情報発信を開始し、以後、改善と情報の充実を図り、本格運用
【取組4】 船社への 誘致活動	ワンストップ窓口体制の構築 クルーズ船社からの各種問い合わせに対し、窓口を一本化して情報提供することを目的として、「瀬戸内海 Consultation Service(相談窓口)」を開設する。問い合わせ窓口の一元化を通じ、瀬戸内海クルーズの活性化を図る シートレードグローバル等への参加 2019年4月に米国フロリダ州で開催される世界最大級のクルーズ見本市である「シートレードグローバル2019」へ参加し、「瀬戸内海クルーズ」を対外発信することでクルーズ船誘致に寄与する
【取組5】 クルーズ船の 航行・寄港に関する サポート体制の充実	船社等へのヒアリング 船社等へのヒアリングを通じて、サポート体制の検討を行うとともに、サポート体制の構築及び充実を図る 定期的に船社ヒアリングを実施し、ヒアリング結果の「瀬戸内海クルーズ情報プラットフォーム」への反映をはじめ、各取組のブラッシュアップに活用

瀬戸内海クルーズ推進会議の推進体制

瀬戸内海クルーズ推進会議は、重要港湾以上の港湾管理者をかねる地方自治体、民間団体等、国の機関から構成される「全体会議」及び、近畿・中国・四国・九州の各エリアに関係する機関から構成される「エリア会議」で構成。



第1回中国エリア会議

平成31年2月7日(木)、他のエリアに先駆け中国エリアにおける瀬戸内海クルーズの推進強化を目的に、「瀬戸内海クルーズ推進会議第1回中国エリア会議」を開催しました。当会議では、瀬戸内海クルーズに関する最新動向の情報共有を図るとともに、中国エリアにおける瀬戸内海クルーズの更なる推進に向けた取組方針について意見交換を行い、中国エリアにおける今後の進め方を確認しました。

主な意見は以下のとおりでした。

- ・港だけのクルーズ船誘致は難しいと実感しており、他の港湾と連携してポートセールズを実施しているところ。
- ・港湾の規模が小さく、クルーズ船誘致は難しいと考えている。他方、観光資源には恵まれているので、情報プラットフォームやマイアミシートレードの公式パンフレットにも入れていただけると嬉しい。
- ・近隣港湾に寄港したクルーズ船の客を、市内の観光地にオプショナルツアーで組み込めないか考えていきたい。
- ・これまで各港単位で取り組んでいたものをまとまって進めていくことは重要。東京オリンピックや大阪万博も控える中、みんな力を合わせてハード・ソフト両面から取り組んでいく必要がある。
- ・複数港湾で連携を行って取り組みを進めることは重要。その上で、連携のためのインフラという観点も重要になってくるのではないかと。
- ・港湾から観光地に向けての2次交通は重要な観点。中国地方の域内交通アクセスは、他地域と比較して未発達な部分もあるため、交通事業者・自治体が協力して改善していく必要がある。



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第1回中国エリア会議 開催状況

第2回中国エリア会議

平成31年3月25日(月)、中国エリアにおける瀬戸内海クルーズの推進強化を目的に、「瀬戸内海クルーズ推進会議第2回中国エリア会議」を開催しました。当会議では、瀬戸内海クルーズ推進会議として進める取組事項に関して、進捗報告を行うとともに、今後の更なる取組みについて、構成員による意見交換を行いました。主な意見内容は以下のとおりでした。

提供をいただきました。

一方、各構成員のうち、引き受けていただいた構成員からは「クルーズ船寄港地となる港湾と周辺地域における新たな観光ルートの提案」というテーマでプレゼンテーションをしていただき、今後の寄港地観光について意見交換を行いました。

座長含む参加者からは、「もう船社は、ありきたりな観光メニューでは来なくなっている。特別な何かが必要」、「各港がバラバラに活動するのではなく、複数の港が地域間のストーリー性を共有しながら連携することが重要」、「外国人観光客の動向はモノ消費からコト消費にシフトしており、リピーター獲得のためにも体験型観光に力を入れることが必要」、「入港料・岸壁使用料無料をインセンティブにしている港も多いと思うが、今後は取るべき料金は取る代わりに、何らかのメリットを提供するなど、多様化・差別化することが必要では」といった意見をはじめ、様々な意見が交わされました。



意見交換も活発に行われました

港が地域間のストーリー性を共有しながら連携することが重要」、「外国人観光客の動向はモノ消費からコト消費にシフトしており、リピーター獲得のためにも体験型観光に力を入れることが必要」、「入港料・岸壁使用料無料をインセンティブにしている港も多いと思うが、今後は取るべき料金は取る代わりに、何らかのメリットを提供するなど、多様化・差別化することが必要では」といった意見をはじめ、様々な意見が交わされました。

第1回四国エリア会議

第1回四国エリア会議が2月25日(月)に開催され、会議では、一般財団法人みなと総合研究財団クルーズ総合研究所山本三夫所長より、「最近のクルーズ事情等について」と題して講話をいただきました。その後、瀬戸内海クルーズを推進する上での課題と課題解決に向けた取組み等について積極的な意見交換が行われました。



第1回四国エリア会議の様子

第1回九州エリア会議

平成31年2月15日(金)、福岡県福岡市にて、「瀬戸内海クルーズ推進会議第1回九州エリア会議」を開催しました。当日は15名が参加し、全体会議の内容の報告や今後の取組方針について報告しました。また、各会員のクルーズ誘致活動の現状や抱えている課題について協議が行われました。

第1回近畿エリア会議

平成31年3月26日(火)、兵庫県神戸市内にて、「瀬戸内海クルーズ推進会議 第1回近畿エリア会議」が開催されました。

会議では、大阪大学大学院の赤井伸郎教授を座長に、瀬戸内海クルーズとして今後取り組むべき課題や、いかにしてクルーズ船を瀬戸内海地域にクルーズ船を誘致するかについて、事務局からの説明を元に話し合いが行われました。



座長の赤井教授による開会挨拶

また、「一般財団法人みなと総合研究財団の石原副所長からは「最新のクルーズ動向について」、「一般社団法人港まちづくり協議会大阪の松本事務局長からは「シェアサイクルを活用した寄港地周辺の観光振興と地域活性化」のテーマで、話題



「瀬戸内海クルーズ推進会議」第2回中国エリア会議 開催状況

なことをまとめるのが、アクションプランなのではないか。

・基本的な単位として、入り口はこちらの港、出口はこちらの港、その観光地は両方の港がサポートすると言うケースも出てくるかもしれない。それぞれの港、観光地が受け入れ環境を整え、連携を図っていくというアクションプランも考えられるのではないかと。

・既に地方自治体で開設しているクルーズ船の受付窓口と、瀬戸内海クルーズ推進会議の取組みの1つであるワンストップ窓口について、どのように差別化を図るべきかを考える必要があるのではないかと。

・アクションプランは、港湾毎ではなく、受入れ地毎、その中で、玄関として港湾を選ぶイメージではないのか。海からクルーズ客を迎ええるのは、必ず、どこかの港に寄港することになる。そこでの受入れと、背後にある観光地は、広域でも良いし、大きなものがひとつでも良い、色々なパターンがあるのではないかと。

・港でのお迎えと観光地でのアクセスは、必ず、必要な要素である。ある港に着目し、その地域の観光をして頂くためのお迎えとアクセス、おもてなしのために必要

「瀬戸内海クルーズ推進会議」 構成員名簿

区分	構成員	区分	構成員
近畿エリア	重要港湾以上の港湾管理者を兼ねる地方自治体	★	中国地方整備局
	大阪府	★	中国運輸局
	兵庫県	★	徳島県
	神戸市	★	香川県
	和歌山県	★	坂出市
	堺市	★	愛媛県
	貝塚市	★	今治市
	高石市		徳島市
	岬町		小豆島町
	姫路市		松山市
海ネット会員	明石市		宇和島市
	高砂市		大洲市
	南あわじ市		四国中央市
	和歌山市		新居浜市
	由良町		四国地方整備局
	近畿地方整備局	★	四国運輸局
	近畿運輸局	★	下関市
	神戸運輸監理部	★	福岡県
	岡山県	★	北九州市
	広島県	★	大分県
海ネット会員	呉市	★	別府市
	山口県	★	佐伯市
	玉野市		津久見市
	瀬戸内市		九州地方整備局
	広島市		九州運輸局
	竹原市		新居浜港務局
	三原市		(一社)中国経済連合会
	尾道市		四国経済連合会
	福山市		(一社)せとち観光推進機構
	東広島市		(一社)日本プロジェクト産業協議会
中国エリア	廿日市市		関西エアポート(株)
	江田島市		公益財団法人 大阪観光局
	坂町		(一社)イーストとくま観光推進機構
	宇部市		小豆島クルーズ船誘致の会
	防府市		四国ツーリズム創造機構
	岩国市		

★は全体会議の構成員



第1回九州エリア会議の様子

各会員から報告されました、主な現状と課題についての意見は以下の通りです。・単独で船社へセールズを行っているが、知名度不足等により苦戦している。複数の港で協力してのPR活動を行っていく必要がある。・クルーズ船が寄港はするが、その周辺での観光が少ない。・関門海峡沿いは潮流の関係で、入港時間が制限される。・クルーズ船誘致の取組を始めたばかりなので、誘致の仕方や歓迎式典の要領が分からない。・港湾を含めた、複数課及び民間を含めて連携して取り組んでいく必要がある。・以上の情報を元に、瀬戸内海クルーズの推進の方針を策定していくことを確認しました。

また、会議の中で「瀬戸内海クルーズ戦略」瀬戸内海の特性を活かしたプレミアム戦略」と題しまして、九州経済連合会観光サービス産業部観光担当部長升本喜之氏より、クルーズ船誘致におけるポイント等についてご講演いただきました。

ネットワーク活動支援

①姫路港ふれあいフェスティバル(夏版)

■パイロットグループ／兵庫県、姫路市

■実施時期／平成30年7月16日

■実施概要／みなとのにぎわい創出を行なう場として国土交通省に登録されている「みなとオアシス姫路」の構成施設「飾万津臨港公園」及びその周辺において、地元の特産品やご当地グルメの提供、地域団体を中心としたステージ演奏等を催すとともに、姫路港旅客ターミナル周辺では、海上自衛隊、海上保安庁の艦船の一般公開やミニクルーズを実施し、身近な港として親しんでもらうようイベントを開催した。



②中四国・瀬戸内クルージングサミット幹事会

■パイロットグループ／三豊市、新居浜市、福山市、高松市、瀬戸内市

■実施期間／平成30年4月～平成31年1月

■実施概要／平成29年度に収集した瀬戸内海クルージングツアー商品化に向けた素材を基に、各種商談会に参加しながら、クルージング旅行の商品化を目指す。幹事会には瀬戸内海クルーズに携わっている事業者にアドバイザーとして入ってもらい、旅行会社や旅行者のニーズ、商品造成についてのノウハウ等の助言を受けるとともに、商談会のコーディネートをしてもらった。



③広島みなとフェスタ

■パイロットグループ／広島市、江田島市

■実施時期／平成31年3月16日～17日

■実施概要／港の魅力を広く一般市民に発信するため、広島港を中心とした大規模なイベントを開催した。特に、瀬戸内沿岸のまちや島嶼部の観光PR、特産品の販売やミニクルーズ等を実施することにより、訪れた方々に港だけでなく瀬戸内の魅力に気付いてもらうことができ、より一層の観光促進、交流拡大を図ることができた。江田島市については江田島PR隊として出店し、地鶏を使った炭火焼きや江田島産のカキを使用した炊き込みご飯の販売を行い、江田島をPRした。また、江田島のPRのチラシ等を購入者に配布し、広島と近い港として広報を行った。



個別活動支援

①ふくやま港まつり2018

■会 員 名／福山市

■実施時期／平成30年11月10日～11日

■実施概要／市民の港や海に対する親しみや関心を高めるとともに、福山港や福山港に関連する施設・事業を広くPRし、港と地域の振興に寄与することを目的として、「ふくやま港まつり2018」を開催しました。練習船「銀河丸」を招致しての歓迎式典及び船内見学会の開催や中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所の港湾業務艇「りゅうせい」の体験乗船、観光船による福山港ミニクルーズ、福山港国際CFS内を解説を聞きながら見学、荷役会社による大型荷役機械のデモンストレーションなどが行われました。また、動物とのふれあい、市民参加型ステージ、飲食ブースなどももうけられ、約3万5千人が来場しました。



瀬戸内海クルーズ推進活動支援報告(クルーズ船等寄港地歓迎イベント支援)

①「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名／小豆島町

実施時期／平成30年5月6日

実施概要／「ぱしふいっくびいなす」が「GW別府・小豆島クルーズ」で小豆島へ寄港した。その際、地元幼稚園児による鼓笛演奏及び上陸記念品の手渡し、また地元有志による出迎え、寄港記念品の贈呈、簡易観光案内所の開設、臨時特産品販売所の設置を行った。



②「ロストラル」出港歓迎行事

会 員 名／兵庫県・姫路市

実施時期／平成30年5月11日

実施概要／今回「ロストラル」は姫路港から出発するクルージングを実施。飛行機で入国した乗船客が姫路城の観光を終えてバスで港へ到着。その際、姫路市立琴丘高校の英語ボランティアが出迎え、お土産を配布し、乗客とご当地キャラ等との写真撮影を手伝った。歓迎式典では、歓迎の挨拶、船長への花束贈呈後、同校の吹奏楽部により、フランスのポップ曲や日本の曲で乗船客を歓迎した。出港にあたり、高校生、ご当地キャラ、市民が出港を盛大に見送った。



③クルーズ船「にっぽん丸」周防大島町寄港歓迎イベント

会 員 名／周防大島町

実施時期／平成30年10月10日

実施概要／「にっぽん丸」が航く 絶景の瀬戸内海・軍艦島周遊クルーズと長崎にて乗船客約350名を乗せて周防大島町へ寄港。寄港に伴い、町では歓迎セレモニーやアトラクションの開催、乗客へのお土産や振る舞い等を用意した。また、隣接する柳井市のご協力もいただき、観光案内や物販を実施する予定で船内では、柳井金魚ちようちんづくりの体験の実施した。

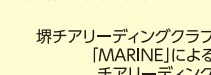


④「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名／大阪府

実施時期／平成30年10月21日

実施概要／大阪府宮港湾堺北港にクルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」の寄港に際しては、船会社及び乗客には、地元の魅力はもとより、港あげての「歓迎」の意を伝えるため、歓迎イベントとして、地元市町による観光PR・物販ブースの出展のみならず船舶入港時の地元消防の協力による歓迎放水、大阪府巡視船が横断幕掲揚によるクルーズ客船歓迎並走を実施し、寄港のお迎え・お見送りを実施した。



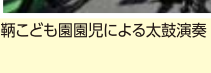
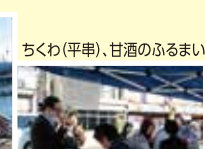
⑤「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名／福山市

実施時期／平成30年11月14日

実施概要／観光コンベンション協会並びに福山商工会議所と福山市事業推進委員会(事務局:福山市)が一体となりクルーズ客船寄港歓迎行事及びおもてなしを実施した。

- 1 鞆こども園園児による歓迎太鼓演奏の実施
- 2 鞆の浦名産ちくわ及び甘酒のふるまい、観光案内
- 3 鞆の浦観光散策チケットによる町内回遊の取り組み
- 4 対潮楼での琴の演奏



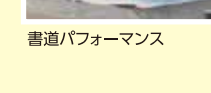
⑥「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名／香川県

実施時期／平成31年1月13日

実施概要／クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」が「新春クルーズ」で高松港に寄港した。455名の乗船客に対し、以下の歓迎行事を実施した。

- ・歓迎イベント(鉄砲隊演武) ・船内 歓迎セレモニー ・岸壁 讃岐うどん振る舞い
 - ・あん餅雑煮振る舞い ・お見送りイベント(高校生による書道パフォーマンス)
- 乗船客は、地元の人と交流できる機会を楽しんでいた。鉄砲隊は乗客から写真撮影も求められ、書道パフォーマンスは乗客に大きな拍手をいただくなど、大変好評であった。また、歓迎行事の告知を行い、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会の後援であることをPRした。



後援活動報告

① マリン・グラン・フェスタ2018

主催 広島ポートショー実行委員会、海の駅ネットワーク、国土交通省中国運輸局、第六管区海上保安本部
 期間 平成30年4月14日～15日
 概要 イベントを合同開催し、海事思想の普及、船艇産業の振興、安全なマリンレジャーの推進、「海の駅」の周知及び利用拡大等を図ることを目的として、広島観音マリーナにおいて開催した。

「各開催イベント」
 ●広島ポートショー
 ●マリンフェスティバル
 ●「海の駅」フェア



イベントの様子



マリン体験



ブースによるイベント周知



イベント状況

② UNOICHIー 海が見える港のマルシェ

主催 NPO法人UNOICHIー実行委員会
 期間 平成30年8月19日 Summer Style 3 宇野港からの瀬戸内クルージングイベント
 平成30年10月20日 客船入港イベント「Voyage of Night 4」岡山県玉野市宇野港第二突堤緑地で開催
 概要 ●宇野港ならびに瀬戸内海を舞台に活躍できる若い世代の育成
 ●宇野港に入港する客船入港時の乗客対応、イベント企画・実施
 ●海の素晴らしさ、大切さを世界にお届けする情報発信
 ●宇野港以外の港、島で行うイベントプロデュース

③ 「第7回豊稔和太鼓フェスティバル」

主催 豊稔和太鼓フェスティバル実行委員会
 期間 平成30年10月7日
 概要 広島県内各地で活動する、和太鼓団体による和太鼓共演。宮司による広島県産品の豊稔祈を広島みなと公園にて実施した。



和を基調としたバンド演奏



和太鼓打ちの様子

④ 平成30年度瀬戸内クルーズセミナー

主催 瀬戸内海観光連携推進会議
 期間 平成30年11月30日
 概要 (株)クルーズバケーション代表取締役 木嶋 榮子氏より瀬戸内クルーズの魅力、をテーマとした基調講演が行われた。また、クルーズ船社と参加自治体による個別相談会を開催した。



セミナーの様子

⑦ クイーン・メリー2入港歓迎イベント

会 員 名 北九州市
 実施時期 平成31年3月1日
 実施概要 英国船社キューナード・ラインが運行する「クイーン・メリー2」が約2,500名の乗客を乗せて3月1日に北九州市のひびきコンテナターミナルへ初寄港しました。当日は、特別に市民がコンテナターミナル内に入場できるようにし、様々なおもてなしイベントを実施し、市民と一緒に初寄港を盛り上げ、北九州市のPRを行った。多くの乗船客から、「このように素晴らしいおもてなしをしていただき感動した。日本の北九州港を忘れない。」との声をいただいた。



⑧ 「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名 岡山県・玉野市
 実施時期 平成31年3月16日
 実施概要 クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」が宮之浦港(屋久島)へ約460名を乗せて出港した。大型客船の発着および寄港は、宇野港宇野地区のにぎわい創出と、県内の観光振興につながることから、出港時に高校生演奏、風船飛ばし(バルーンリリース)等のおもてなしイベントを実施した。



玉野高校吹奏楽部による歓迎演奏



風船飛ばし(バルーンリリース)

⑨ 「ぱしふいっくびいなす」寄港歓迎イベント

会 員 名 和歌山市
 実施時期 平成31年3月29日
 実施概要 「ぱしふいっくびいなす」が、寄港した。同船の乗船客を始めとする関係者の皆様に、瀬戸内海東端の和歌山の魅力を広く知ってもらい、ひいては瀬戸内海全体の人気を高めることを目的として、地域全体でお出迎え・お見送りのおもてなしイベントを開催した。入港時の歓迎イベントでは、きぐるみや地元の語り部等による歓迎や、特産品のふるまいなどのおもてなしを行った。出港時のお見送りイベントでは、紀州よさこい演奏及び和歌山市消防音楽隊による演奏をした。さらに、クルーズ船を間近で見ることが出来る岸壁を一般開放し、港に集まった皆様と紙テープでお見送りを行った。



紀州よさこい演奏



海ネットPR

クルーズ船誘致活動支援

① クルーズ寄港誘致事業

会 員 名 中津市
 実施時期 平成30年6月28日～29日
 実施概要 瀬戸内海の西端に位置する大分県中津港へのクルーズ船誘致のため、寄港実績のあるクルーズ船社やツアー企画会社へポートセールスを実施した。訪問先では、中津港の概要とともに、中津市及び周辺自治体の宇佐市、豊後高田市、日田市の観光情報やこれまでクルーズ船寄港に際し、実施した沿岸でのイベント等の紹介を行い、中津港を強くアピールするとともに、瀬戸内海の魅力の発信することができた。



クルーズ船社訪問の様子

② 宇野港クルーズセミナー in おかやま

会 員 名 岡山県
 実施時期 平成30年12月1日
 実施概要 岡山県の宇野港へのクルーズ客船誘致活動の一環として、県民等に対してクルーズ旅行の魅力を発信することを目的にセミナーを開催した。セミナーでは主にクルーズ旅行初心者を対象として、中国地方整備局からクルーズの現状について、旅行代理店、クルーズ船社等から国内外船のクルーズ船による旅行の魅力を講演し、また、地元旅行代理店より県内等から発着するクルーズ旅行について紹介した。



セミナーの様子



第12回 瀬戸内海首長サミット

～瀬戸内海の魅力を磨くには～

平成30年6月1日(金) サブライムホール宇和島 ニュー兵頭(愛媛県宇和島市)

● 瀬戸内海首長サミット参加市町



刈田町長 遠田 孝一

クルーズ船からの景色を楽しんで頂くだけでなく、地元で消費をしてもらう仕掛け作りが必要。最近の中国の方は、体験・学習・交流を目的に訪日している。宇部市でも、広域連携を開始しており、県内でつながり、瀬戸内で行う海外とつながる取り組みを、民間/パワーを入れて具体的な商品としたい。それぞれの地域の魅力が上がる方法、発信の仕方、商品開発の仕方など、御指導頂きたい。



宇部市長 久保田 后子

瀬戸内の各地域にはそれぞれ魅力がある。これらの点をつなげて、受け手側に立った仕組みを、役所だけではなく民間も巻き込んで作っていく必要がある。宇部市でも、広域連携を開始しており、県内でつながり、瀬戸内で行う海外とつながる取り組みを、民間/パワーを入れて具体的な商品としたい。それぞれの地域の魅力が上がる方法、発信の仕方、商品開発の仕方など、御指導頂きたい。



坂町長 吉田 隆行

坂町は広島港の東に位置し、JRに直結した延長1.2キロメートルの西日本最大級の人工海浜を含め、山や海、自然を容易に満喫できる環境にある。常設のコートのあるビーチパラーなどのビーチスポーツなどで多くの訪問がある。年間を通じてビーチの賑わい創出のための施設を計画しており、ビーチの魅力をもっと高める取り組みをこれからも続けていく。また、歴史ある伝統を活かす取組も行っていきたい。



竹原市長 今榮 敏彦

瀬戸内海に浮かぶ竹原市の大久野島は、かつて毒ガスを製造していた島の遺産であるが、訪日外国人のSNSによる情報発信により「ウサギ島」として注目され、国内外から40万人もの観光客が訪れている。一方、訪れる人の多さから予定の船に乗れない状況も生じている。航路事業者や近隣市町と連携した受入体制の整備に取組み、地域のにぎわい創出や観光商品開発につなげ、瀬戸内海の魅力向上を図っていきたい。



上島町長 宮脇 馨

瀬戸内海はミニクルーズの世界だと思っており、相手のニーズにいかに対応していくかという考えをもって、ストーリー性のあるメニューを瀬戸内海の各所に用意することが必要。玉野市ではヘルスケア、ビーチスポーツ、ボラリングなどのメニューの提供ができるが、玉野だけで完結せず、ニーズに応え連携できる体制をこの海沿いのネットワークで築いていきたい。成功すると確信している。



玉野市長 黒田 晋

クルーズで来られる方に対して押しつけではなく、相手のニーズにいかに対応していくかという考えをもって、ストーリー性のあるメニューを瀬戸内海の各所に用意することが必要。玉野市ではヘルスケア、ビーチスポーツ、ボラリングなどのメニューの提供ができるが、玉野だけで完結せず、ニーズに応え連携できる体制をこの海沿いのネットワークで築いていきたい。成功すると確信している。



瀬戸内市長 武久 顕也

瀬戸内市の牛窓港は、朝鮮通信使の寄港地として世界記憶遺産に登録された歴史を持つ港。3月には107カ所目のみなとオアシスとして登録された。また、備前おさふねという刀剣の聖地があり、訪れる外国人は日本刀に触れたり、昔の製法を見たりと、特別な体験が出来るのが魅力につながっている。ゆかりのある場所に本物が見られる博物館などの文化的な施設や文化財があるまちづくりをしていきたいと思っている。



高石市長 阪口 伸六

瀬戸内海の各都市は、他に負けないような観光名所をたくさん持っている。関西国際空港を利用する方は、H23年～H28年で275万人から1,242万人と4.5倍の伸び率になっている。しかしこの観光客を瀬戸内海に取り込めていない現状がある。問題解決のためには、関西の経済界、首長、各地方整備局も含め、西日本が力を合わせてインバウンドを生かす知恵とネットワークを形成することが必要。



岬町長 田代 堯

昨年の航路復活に向け行った社会実験の結果、本年は大阪湾をつなぐ広域型サイクル・ツーリズム事業を実施する。瀬戸内と大阪湾をサイクリングと航路で結び、関西国際空港へのインバウンドにより広域交流圏の形成を実現するものと考えている。また、航路再生は、災害時の代替交通としても機能が生まれ、南海トラフ巨大地震で大橋が通行止めになるなどの想定外の事態にも備えることができる。



湯浅町長 上山 章善

湯浅町の港は、浅瀬が多く、沖泊も難しいため、クルーズ船の誘致を断念せざるを得なかった。その中で、瀬戸内を売りにした、港の回復に努めたいと考えている。昨年度は、醤油醸造発祥の地のストーリーが「日本遺産」に認定されたことにより、観光客も増えてきている。今後は、もっと海を活かした観光に力を入れて取り組んでいきたいと考えている。



四国運輸局 観光部観光地域振興課長 寒河江 達哉

今年度の観光地域支援事業は、DMOを中心としたインバウンド誘客に対する補助事業。DMOの規模に応じて、役割の分担と連携が求められる。広域的なDMOは、規模を活かしたプロモーションや情報発信等が効率的。地域DMOは、地域の観光資源の磨き上げに最適な組織で、観光客のニーズを的確に把握する人材を配置する資金の支援や事業の進め方など、両面での支援が非常に重要。



国土交通省 港湾局産業港湾課長 魚住 聡

訪日外国人へのインバウンド対策のため観光庁と連携を調整しており、財源や制度の拡充等、十分な対応をしていければと考えている。日本人が考える本物と外国人が日本に求めている本物に差があるため、寄港される自治体とクルーズ船社をマッチングし地域の観光資源の特色を高める施策も打ち出している。海ネットでの取り組みも磨いていただき、2020年、500万人のクルーズ客という目標に御協力をいただきたい。



愛南町長 清水 雅文

魚の養殖が一番の産業で、宇和海で生産するタイの生産量は全国の65%、約3匹に2匹が宇和海のタイである。クルーズ船で来られた方が楽しみにしているものは、伝統的な日本料理で、食は一番印象に残るのではないかなと思う。宇和島市、宿毛市に来たお客さんには、近隣エリアとして観光していただくような形の売り込みをしていけると考えており、愛南町にぜひ来ていただきたい。



宇和島市長 岡原 文彰

クルーズ船が宇和島に滞在するのは、だいたい半日余り。そこで日本の文化というものを集中して見てもらい、喜んでもらわなければならぬ。そのメニューの提案にあたって、いいもの悪いものという判断を我々の価値観で押しつけてもだめ。外国の方々の目線を常に意識しながら提案することが必要である。限られた時間のなかで、これからもおもてなしにベストを尽くしたい。



西予市長 管 一夫

西予市は地中海を思わせるすばらしいロケーションがあるところで、段々畑や4億年前の地層の海岸など、日本ジオパークに認定された「四国西予ジオパーク」がある。大きな港はないが、市内にある一つ一つの港を生かし、レジャーのスポットにしたい。また、クルーズ船が寄港する隣接市との連携により、観光地として訪問してもらいたい。「いいやん!西予」の合い言葉で西予の魅力情報を発信していく。



八幡浜市長 大城 一郎

八幡浜は大きく変わろうとしている。宮崎、鹿児島から関西方面に行くのに四国ルートを通じていこうが近い、早い、安いというルートがあり、昨年度の貨物の輸送量は過去最大となった。今後ますます港の有効性を活用していきたい。2002年からの国際マウンテンバイクレースに加え、来年は、マレードフェスティバルの開催を予定しており海外から多くの訪問がある。現在、新しい様子を整備中であるが、完成後は旧様子を改良し、大型クルーズ船が寄港可能な港を整備したい。



伊予市長 武智 邦典

伊予市のJR下灘駅は、プラウトホームから瀬戸内海を一望できる場所。映画やテレビのロケで活用され、外国人の方々がここへ来て、写真を撮って帰られる。それがSNSで情報発信され、より多くの方々に来ていただいている。そういった部分を我々が見つけていき、瀬戸内海の魅力を発信するべきである。伊予市に大きな港はないが、それら一つ一つを深めていき、この瀬戸内海の魅力を発信していきたい。



西条市長 玉井 敏久

本市にある東予港は、国・県に協力いただき、耐震強化岸壁を兼ね備えた物流一貫ターミナルに生まれ変わる。南九州からは、大分県から愛媛八幡浜港、東予港から関西へと航路を繋ぐライン(海)の路が構築され、今までにも増して人と物の流れが盛んになってくる。瀬戸内の地域資源やお宝を紹介する瀬戸内海クルーズの企画にあたっては、インバウンドを意識し、外国人の感性を研究しながら我々が出来ることを海ネットと考えていくことが必要である。



今治市長 菅 良二

尾道市と連携し、能島、来島、因島と日本遺産に登録された村上海賊。大三島の大山祇神社には、樹齢約2,600年の大楠、国宝館に国宝、国重要文化財などあり、これらをしっかり情報発信したい。サイクリストの聖地と言われる「しまなみ海道」のサイクリングや、夜間航行ができないことを逆に逆手にとり昼間にこの素晴らしい景色を見てもらいたい。また、有名な画家の美術館も多くあり、文化も発信したい。



四国中央市長 篠原 実

瀬戸内海は世界の一級品のロケーションと景観を持っていると思っている。ただ、当市の港の圧倒的なコンテナの貨物を見てみると、クルーズ船の運航は夢のようなもので、その現実との差が大きい。ただ、今回の講演を聞き、一度民間の方々の力を借りて、クルーズ船の利用・運航、どのようなことができるかを勉強してみたいと思っている。



坂出市長 綾 宏

塩の積み出し港として栄えた坂出港は、今年で開港70周年を迎え開港行事等を行っている。坂出港は物流港としての利用頻度が高く、クルーズ船寄港との調整が課題である。交通の利便性が良いため、クルーズ客はバスで徳島や高知まで行くが、四国全体へのメリットという大きな目も必要と考えている。今後は、瀬戸内海の観光地を繋いだ広域的な観光ルートの造成も重要であると考えている。



南あわじ市長 守本 憲弘

淡路島は鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録を目指している。渦潮をはじめ瀬戸の急流を体験するクルーズは良いと思う。また、大鳴門橋の下に自転車道を通し瀬戸内一周を実現したい。船で寄港し、自転車で移動、次の所で乗船できればユニークなクルーズになると思う。また、瀬戸内海の魅力を高める方法として里海のコンセプトで売り出していくなど協力してやっていくことも必要と考えている。

※出席者の役職名は平成30年6月1日現在です。